

第3回

鳥取市若者議会 議事録



平成24年1月21日(土)

鳥取市



発言一覧表

順序	発言者	通 告 内 容
1	いわた よしまさ 岩田 宜真 (社会人)	<p>【ガイナレ鳥取の集客力向上について】</p> <p>…(教育委員会、企画推進部)</p> <p>(1) サポーター獲得のための取り組み状況および今後の展開について</p> <p>(2) ガイナレサポーターや市民に期待する役割について</p> <p>(3) 今後の鳥取市にもたらず期待について</p>
2	あさお ゆうすけ 浅尾 悠介 (大学生)	<p>【鳥取市の農業の現状と今後の課題について】</p> <p>…(農林水産部)</p> <p>(1) 耕作放棄地を解消するための課題について</p> <p>(2) 鳥取市での新規就農について</p> <p>(3) T P P参加に伴う耕作放棄地と農業の担い手の問題について</p>
3	にいな あつこ 新名 阿津子 (社会人)	<p>【とっとり千年構想について】</p> <p>…(都市整備部、経済観光部、防災調整監)</p> <p>(1) 鳥取市の千年後の将来像について</p> <p>(2) 鳥取市が千年続くための都市の景観と機能について</p> <p>(3) ジオパークを活用した防災学習についての施策について</p>
4	みょうが ゆきや 茗荷 幸也 (大学生)	<p>【中心市街地および中山間地域の活性化について】</p> <p>…(都市整備部、経済観光部)</p> <p>(1) 中心市街地における「スポーツファンの集う施設」の設置について</p> <p>(2) 鳥取市の特産品を活かした取り組みについて</p> <p>(3) 鳥取市の自然や歴史的な名所を活かした新観光コースについて</p>
5	おかむら こうさく 岡村 耕作 (大学生)	<p>【雇用・就職活動について】</p> <p>…(経済観光部)</p> <p>(1) 鳥取での雇用改善策について</p> <p>(2) 若者や有能な人材の都市部流出への制御策について</p> <p>(3) 就職活動に対する支援策について</p>
6	かきや かつよし 垣屋 克吉 (社会人)	<p>【鳥取市の観光資源の活用について】</p> <p>…(経済観光部、都市整備部)</p> <p>(1) 鳥取市の観光資源と今後の展望について</p> <p>(2) 国際マンガサミットにおける鳥取市での取り組みについて</p> <p>(3) 城下町とっとりを活かした取り組みについて</p>
7	まつお けいすけ 松尾 慶輔 (社会人)	<p>【婚活・子育て事業について】</p> <p>…(企画推進部、健康・子育て推進局)</p> <p>(1) 鳥取市の婚活事業の成果について</p> <p>(2) 鳥取市の少子化対策について</p> <p>(3) 鳥取市における子育て王国鳥取について</p>

日時：平成24年1月21日（土）

午後1時30分～

場所：鳥取市役所本庁舎5階 議場

国森企画調整課長

ただいまより若者議会を開催いたします。

開会に当たりまして、本日の議長、若者会議、筒井会長よりごあいさつ申し上げます。

筒井洋平議長

皆さん、こんにちは。ただいまより鳥取市若者議会を開催いたします。

本日は、鳥取市若者会議の若者議会の開催に際し、竹内功鳥取市長様を初め、市の執行部の皆様には御出席いただきましてありがとうございます。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます鳥取市若者会議会長の筒井洋平と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

若者議会の開催に当たり、この議会の開催趣旨を御説明いたします。

この鳥取市若者会議は、鳥取市の若者が市の将来像について若者の視点で協議、提言を行い、積極的な市政参画による協働によるまちづくりを推進することを目的に、公募や団体推薦によるメンバーで設置されたものです。会議では、鳥取市のまちづくりについて、2つのグループに分かれ、それぞれテーマを設定し、その解決に向けて何ができるかをみんなの力を合わせて考え、行動の中でその結論を出そうと頑張っています。

日本では、国内人口の減少や経済、雇用の不安感の広がりなど多くの諸問題を抱え、鳥取市においても例外ではありません。鳥取市においてもこれらの課題に向けてさまざまな施策を行っていますが、これからの私たちにとって住みよい鳥取市をつくるためには、行政だけではなく、我々地域に暮らす者も協力して、それぞれの役割を十分に果たしていく必要があると思います。

私たち鳥取市若者会議では、協働のまちづくりを実践により学び、自分たちの生活や地域づくりに役立てていきたいと考えています。

本日は、私たちメンバーが鳥取市政に対する疑問や意見、提言を申し上げますが、きょうこの議会での議論が少しでも鳥取市の市政発展に役立つことを願っています。

以上で本日の鳥取市若者議会の開催趣旨説明といたします。

では、若者議会を開催させていただきます。

本日の若者議会がスムーズに進行して、有意義な議会となりますよう、御協力をお願いします。

日程第1、議席の指定を行います。

議席は、議長が指定します。

各議員の議席番号と氏名を若者会議事務局の国森企画調整課長に朗読させていただきます。

国森企画調整課長

それでは、朗読します。

1番、岩田宜真議員、2番、浅尾悠介議員、3番、岸本雄太議員、4番、新名阿津子議員、5番、山本祐之議員、6番、渡部直樹議員、7番、茗荷幸也議員、8番、森本愛議員、9番、岡村耕作議員、10番、宮本貴裕議員、11番、垣屋克吉議員、12番、松尾慶輔議員。

なお、5番、山本祐之議員、6番、渡部直樹議員は都合により欠席の申し出をいただいておりますので、報告いたします。以上です。

筒井洋平議長

ただいまの朗読のとおり議席を指定しました。

日程第2、市長の所信表明を行います。

竹内市長。

竹内市長

本日の若者議会開会に当たり、私の所信の一端を申し述べたいと思います。

昨年は、3月に発生した東日本大震災や世界同時不況以来続く景気不振など、日本全体が閉塞感に包まれた一年でありました。平成24年辰年は、こうした逆境を打ち破り、登り竜のごとく飛躍する一年にしていかなければならないと決意を新たにしているところであります。

今年、私が市政推進の柱として掲げている重点施策について、次の3点をお話したいと思います。

まず第1点は、安全・安心な市民生活の実現です。

想定をはるかに超える甚大な被害をもたらした未曾有の大震災は、津波被害や原発事故への対応、災害ボランティア受け入れ体制の混乱など、さまざまな教訓を残しました。市民の皆さんの防災意識が高まっている今、その教訓を生かした地域防災のあり方を再構築し、地

域の防災力の強化を図っていかなければなりません。また、市民サービスの拠点となる災害に強い新庁舎の建設、災害時の避難所となる各総合支所や学校、地区公民館等の施設の耐震化を含めた整備を進め、50年後、100年後の将来にわたって市民の皆様の生命、財産を守り、安心して暮らせる地域社会の強固な基盤づくりを進めてまいります。

第2点目は、活力とにぎわいのあるまちづくりです。

ことしは3月23日から3月25日にかけて、全国的に著名な多くの文化人が一堂に会し各種講座などを行うエンジン01文化戦略会議オープンカレッジin鳥取、6月にはB-1グランプリ鳥取大会、さらには世界マンガサミットに関連するイベント、Jリーグ2年目を新たな体制で迎えたガイナレ鳥取のホームゲームなど、年間を通じて交流人口の拡大を図る施策を推進してまいります。

4月14日にはいよいよ世界初の砂像の常設展示施設、砂の美術館がオープンします。イベントを通じて全国各地から多くの方が訪れる機会に砂像のまち鳥取市を広く世界にアピールし、山陰海岸ジオパークを初めとする自然や温泉、海の幸、山の幸など、鳥取のすばらしさを満喫していただけるよう、全国の皆さんへのおもてなしを強化して、持続的な観光客の増加を目指します。

第3点目は、地域産業、雇用の再構築です。

三洋C Eの事業再編などにより、市内の企業から発生した大量離職者、鳥取環境大学や鳥取大学の卒業生が地元産業の担い手として今後も活躍していくためには、景気に影響されない内需型産業への転換を図る必要があると考えています。鳥取自動車道の開通に向けた京阪神や山陽方面への販売体制の整備による農林水産業の振興、さらには環境エネルギー、保健、医療、福祉、観光といった今後成長が見込まれる成長産業の振興や支援により産業全般の底上げを図り、新たな企業の誘致もあわせて、市としてあらゆる手段を講じて雇用対策に取り組んでまいります。

さて、本日の若者議会は、若者会議の皆さんが2年間の活動の中で市政に対して感じていることや、鳥取市をこんな町にしたいという思いを述べていただき、議会形式で議論することによりまして、皆さんと市の執行部もお互いに理解を深め、今後のまちづくりにつなげていく場であります。

代表して登壇される8人の皆さんからいただいたテーマを見ますと、私が先ほどお話しした市政推進の3つの重点施策について、共通の課題として若い皆さんに認識していただい

いることに感心しております。本日は、こうしたテーマについて、若者の視点での提案をしっかりと述べていただき、私もそれをしっかりと受けとめ、誠心誠意お答えをしたいと思っております。

人口の減少や雇用不安などの閉塞感を打破し、本市が継続的に発展を遂げていくためには、皆さんの若い力が必要です。現在、皆さんは若者会議の第3期メンバーとして、休日や仕事や学校が終わった夜間に会議や活動に参加され、地域の活性化のために目的意識を持って活発に取り組んでおられるところであります。まちづくりのパートナーとして非常に心強く、また、心から敬意と感謝を表したいと思っております。若者がみずからまちづくりの活動に参加されることで、町の魅力が高まり、住んでみたい、ずっと住みたいと思える活気と活力あふれた鳥取市につながっていくものと確信しております。これからも若者会議の皆さんには、将来の鳥取市を担うリーダーとして、我々と一緒になって本市の持続的発展に取り組んでいただくことを期待しております。

また、本日のこの若者議会が、若い方々の政治への関心、あるいは政治への参加の大きな契機となりまして、ひいては市政の一層の発展につながることを願い、私の所信といたします。どうぞよろしく願いいたします。

筒井洋平議長

市政一般に対する質問を行います。

議長に発言通告書が提出されておりますので、順次発言を許可します。

岩田宜真議員。

岩田宜真議員

私は、ガイナレ鳥取の集客向上策について質問をさせていただきたいと思っております。

ガイナレ鳥取のJ2での戦いは、鳥取県の子供たちのあこがれや夢となるだけでなく、鳥取県民が日本全国と渡り合っていこうという、そういった機運を高めてくれる、さらには多くの経済効果も生み出してくれるものであると期待をされております。

そこで、幾つか質問をさせていただきます。

まず、県外サポーターによる経済効果の創出についてです。

毎試合、県外からは多くのサポーターが来鳥されております。より多くのサポーター誘致のため、またはそういったサポーターから鳥取観光のリピーターを生み出すために、現在どのような宣伝やおもてなしの取り組みをされていらっしゃるのでしょうか。お答えをいた

だきたいと思います。

以上、登壇での質問とさせていただきます。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

岩田議員から、ガイナレ鳥取の集客向上策ということで最初の質問をいただきました。見ていただくとわかりますが、今日はガイナレのネクタイをしてきたわけでありまして。私もガイナレを応援している一人だということでありまして、質問についてお答えしたいと思います。

鳥取市は、ガイナレ鳥取のJリーグ昇格という山陰初のプロスポーツ誕生を契機として、地域への効果を最大限生かすことを目的に、市の関係各課、鳥取県、SC鳥取及び関連企業で構成するガイナレ効果による鳥取力向上チームを組織しております。他のJリーグチームの視察などを通じまして、他のホームタウンに負けない地域の魅力創出に取り組んでいます。

具体的には、以下4点申し上げますが、第1点として、スタジアムグルメやステージイベントなどの充実、これはエンターテインメント性の向上ということでありまして、これが第1点であります。第2点は、アウェイサポーターへの観光PRや物販、ウェブ情報の充実を図っております。これは鳥取の魅力の情報発信に努めているという点であります。第3点目は、中四国ダービーマッチや御当地お祭り対決などの企画を出してございまして、特に縁の深いこうしたチームとの間で一層の交流人口増加が得られるように企画イベントを行っているというのが第3点であります。第4点目は、街なか駐車場の開放、無料シャトルバスの運行、こういったことによりまして、交通渋滞対策と中心市街地への誘導ということで、町中のにぎわい等につなげているということがあります。

こうした代表的な4点を上げましたが、こうした取り組みの成果としまして、ホームゲーム21試合、これは天皇杯のチャリティーマッチを含んでいますが、観客動員実績などをもとに試算した効果でありまして、ホームゲーム開催による鳥取市内への経済波及効果は6億5,000万円と推計をしております。地域の新たな活力源となっているということがあります。

Jリーグ参入の最初のシーズンにつきましては、御存じのように平日開催であったり、シ

ーズン後半、悪天候などの事態もございましたので、観客動員数が目標していた5,000人に至らなかったということでもあります。3,000人台の数字であったわけで、そういった中でもこうした6億5,000万円の経済効果を上げることができたと。ことし始まります2年目のシーズンでは、新たなホームサポーターの確保とリピーター確保対策に重点的に取り組みまして、鳥取市周辺から西に向けて、県中部、西部の県内サポーターにもより多く足を運んでいただくような条件をつくっていきたいと考えております。

御存じのように、今、ピッチの芝を張りかえたり、24年度の事業としてオーロラビジョンの整備といったことを予定しておりますので、そうしたことも新たな魅力として加わると考えております。これを含めて、総合的な取り組みにより、より多くの観客動員数を確保して、大きな経済効果、それもスタジアムあるいはその周辺だけではなくて、町中での経済効果を上げていきたいと考えております。

筒井洋平議長

岩田宜真議員。

岩田宜真議員

ありがとうございました。

では、重ねて質問させていただきます。

ガイナレ鳥取の観客のうち、地元鳥取県内からの集客をふやすために取り組むべき課題としてどのようなことが考えられていますでしょうか。これにつきましては、とりぎんバードスタジアム及び周辺地域のハード、ソフトの両面の観点からお答えをいただきたいと思っております。

あわせて、それらの課題をクリアするために、鳥取市及び株式会社SC鳥取がそれぞれどのような役割で取り組んでいかれるのか、さらにサポーターですとか鳥取市民はどんなことができるのか、この辺を教えていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

第2問目につきましては、教育委員会の方でお答えをいただきます。

教育長、よろしく申し上げます。

筒井洋平議長

中川教育長。

中川教育長

岩田宜真議員からの質問にお答えします。

観客数をふやす課題とか施策とか、あるいはガイナレサポーターや市民に期待する役割ということでございますが、まず、ガイナレ鳥取のホームゲームでの集客をふやす上での第1の課題は、強いガイナレ鳥取が見られる試合の魅力アップをすることだと考えております。本市では、まず、Jリーグにふさわしいエキサイティングな試合を披露できるよう、ホームゲームの舞台となりますとりぎんバードスタジアムの改修を進めておるところでございます。今、市長答弁でも触れられましたけども、今年度、ピッチの芝生をリニューアルの真っ最中ございまして、来シーズンに間に合わせるようにしております。また、来年度中にはオーロラビジョンの整備も予定しております。また、ガイナレ鳥取の新たな練習拠点として活用していただきます若葉台スポーツセンターも平成25年度の開設を目指して整備をしておるところでございます。こうしたことで国内最高峰レベルの選手がその能力を最大限に発揮でき、ゴールの感動や勝利の喜びを観客の皆様感じていただけるものと確信しております。

2つ目の課題は、ガイナレ鳥取のホームゲームを単なるサッカーの試合開催にとどめないということでございます。これは本日御出席の多くの議員の皆様も何度かスタジアムに足を運ばれておりますので、その雰囲気はよく御存じだと思いますけども、昨シーズンのホームゲームでは、熱狂的なサポーターが醸し出すあのにぎやかな、迫力ある雰囲気に加えまして、スタジアムグルメやステージイベントなど、日常を離れた祝祭、お祭りムードが大変盛り上がりました。来るシーズンにもエンターテインメント性のさらなる充実を図りまして、ハード、ソフトの複合的な取り組みによりまして、スタジアムを一層魅力ある空間として、観客の皆様の満足度が向上することで、集客力のアップにつなげていきたいと考えております。

サポーターや市民の皆様期待する役割としてでございますが、呼びかけたいことは、まずともに歩もうということでございます。スタジアムに足を運んでいただいて観戦していただければ、これはいいことですけれども、家庭や地域の話題に取り上げられたり、県内外の皆さんにガイナレを通じてふるさと鳥取の魅力を伝えていただくなど、今の自分にできることを一つずつ積み重ねていただくことがガイナレ鳥取を支える大きな力になるものと考え

えております。

ガイナレ鳥取が活躍することで、市民が元気になり、郷土に誇りと夢が持てるものと考えております。さらに、鳥取の知名度が向上し、経済が活性化します。こうしたクラブと市民とがお互いにウインウインの関係になれるよう、ともに歩もうと考えております。以上でございます。

筒井洋平議長

岩田宜真議員。

岩田宜真議員

ありがとうございました。

では、最後になります。今後、ガイナレ鳥取の活躍が鳥取にとってどのような効果を生み出していくことに期待をされていらっしゃるのでしょうか。これについては根拠ですとか確信ですとか、そういったものがない話でも構いませんので、ぜひとも夢を語っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

根拠、確信のない話という注釈もありましたが、かなりの根拠を持ってお話しできると思いますが、御存じのように、ガイナレ鳥取は、JFLで10年戦って、後半では5位を2回経験したり、最後はトップになってJ2に上がったわけです。多くのサポーターに大きな夢をずっと与え続けてくれているのがこのガイナレ鳥取だと思います。そして今、塚野社長さんを初め、1年目を経験した後、新たな第2年目のシーズンのスタートを切ろうというところで、「強小四年 信頼」というテーマを掲げています。まず強小ということが我々に本当にじんとくるところがあるわけで、小さいけれども強いというのですか、私はもう一歩進んで、小さいのがゆえに強いのだということも言えるようなチームになってもらうことを願っていますが、要は、人口最少県である鳥取県ならばこそ言える強小というテーマを掲げて、今やJ2の世界に入り、Jリーグの中でJ1を目指して歩みを始めているということでもあります。

鳥取市にとりまして、J2に入る一つの大きな契機として、ガイナレ効果による鳥取力向上と言っておりますが、先ほども触れましたように、経済効果が非常に期待できるという

こともそうですが、情報発信をできる、これを機会に鳥取のことをいろいろ知っていただく一つの大きな契機となっているということと、それから、鳥取に住む我々、それから鳥取から離れた鳥取人にとっての誇りと自信につながっているということを私は確信をいたしております。そういう中で、我々、まず地元からの応援の輪が広がり、チームが強くなり、そしてJ2、J1と歩む中で、本当に地域の大きな新たなシンボルとして、ガイナレ鳥取がなっていくと思います。そしてガイナレの考え方は、Jリーグ百年構想というものがもとになっておりますので、地域との関係を築いていくということで、地域のスポーツなり青少年の成長なりとともに歩もうという考え方でありますので、単に一スポーツチーム、それもプロのスポーツチームというだけではなくて、地域に対して大きな地域貢献をするという主体としても活躍をいただけるものと思います。

Jリーグに入ってまだ1年が済んだところであります。我々も先ほどハード面の整備、また情報発信などソフト面のこれからの取り組み、こうしたところで我々サポーターサイドも磨きをかけて、チームそのものの力の成長とあわせて、先ほどともに歩もうという教育長の呼びかけがありましたけれども、まさにチームと地域がともに歩むという形の中で、経済効果だけではなくて、夢と誇り、自信、そうしたものを生み出す大きな原動力になると考えております。そういったことが岩田議員の一番質問されたかった点ではないかと思ひますし、きっとこういうことを関係の皆さんがともに共有することで、本当に大きな効果がここで生じてくるものと思います。引き続きガイナレに対して地域の中で、そして若い人たちが力を合わせて、その推進力となる、応援のサポーターの中心となっていくということをぜひとも期待をしたいと思います。よろしく申し上げます。

筒井洋平議長

岩田宜真議員。

岩田宜真議員

こちらの質問に丁寧にお答えいただきましてありがとうございます。今、市長も言っていたいただきましたが、ガイナレ鳥取は日本全国と渡り合い、小さいながらもより強く、より多くの笑顔を生み出していく、まさに鳥取の夢そのものだと思います。経済不振とか大規模災害、我々には将来の不安などもたくさんあります。ですが、特にこれからの未来を担っていく子供たちには、夢を抱くということをあきらめず、夢を語るということを恐れない、そんなふうになっていただきたいと思ひます。そのためにも、今こそ我々大人が大いに夢を語り、

一緒に夢を追いかけていければと思います。

以上です。ありがとうございました。（拍手）

筒井洋平議長

浅尾悠介議員。

浅尾悠介議員

私は、鳥取市農業の現状と今後の課題について質問いたします。

環太平洋戦略的経済連携協定（以下「ＴＰＰ」）への参加交渉が始まり、国内産業や雇用情勢などのさまざまなテーマで展開している議論はこれまで以上に注目されています。中でも早くから注目されていたのがＴＰＰ参加による農業への影響についての議論ではないでしょうか。おとし農林水産省が公開したＴＰＰによる主要農作物への影響試算にのっとり、鳥取県でも同作物の県農業生産減少額が試算され、試算対象品目の県農業生産額８４．３％が減少という結果が公開されています。こうしたＴＰＰ加入の影響はまだまだ不明確で、予測の範疇にあるものの、以前から国内の農業問題として指摘され、鳥取市でも対策が講じられてきた耕作放棄地解消と農業の担い手確保の問題には、少なからず今後の見通しや方針等にＴＰＰの影響を予測した上での対策を加えていく必要が生じることになると考えられます。

農業生産額減少の対策として最も安直に考えつくのは、生産規模の拡大による生産性の向上ではないでしょうか。そのためには、農地の集約や耕作放棄地の利用が必要とされます。鳥取市では、耕作放棄地対策事業が実施されており、請求した資料によると、耕作放棄地解消面積は毎年拡大していることがわかります。しかし、耕作放棄地解消面積よりも新しく耕作放棄地として加算される面積の方が大きく、年々、耕作放棄地が増加してしまっています。耕作放棄地解消と耕作放棄地拡大のイタチごっこに、耕作放棄地解消の方が押し負けているという印象を受けました。

そこで質問です。耕作放棄地対策事業を通して見えてきた耕作放棄地対策事業を実施し耕作放棄地を解消していく上で直面している問題点、課題があれば御説明ください。また、その問題点、課題を克服するためには何が必要でしょうか。そして、その必要なものを得ることができた場合、耕作放棄地対策事業は現在と比べてどの程度進行するものと考えられますか。現時点での事業目標と照らし合わせて御回答ください。

登壇での質問を以上といたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

登壇で2問の御質問がありました。いずれも耕作放棄地の対策ということで、鳥取の農業を元気にしていく上では大変大きな課題として、今、取り組んでいるさなかの問題で、御指摘のように、一方で耕作放棄地を解消しようとする、他方で耕作放棄地が新たに生まれてくるという状況があるのは、浅尾議員の質問の中にあるとおりであります。

まず、耕作放棄地の対策事業をやっている中での課題、問題点についてお答えをしたいと思います。

本市におきましては、平成21年度から国の耕作放棄地再生利用緊急対策事業を活用しまして、耕作放棄地の解消の取り組みを行っています。この事業は、耕作放棄地を再生して、その後、借り受けて耕作する事業者を支援するという内容であります。補助率は、国の補助に県、市の補助を上乗せいたしまして、事業者の負担が1割から2割と軽減されているという制度であります。この事業によりまして、平成21年度、22年度に48ヘクタールの耕作放棄地の解消をしているところです。

問題点、課題ではありますが、なぜ耕作放棄地が起こってきているかというと、農産物価格が下落する中、担い手不足、それから高齢化などの理由で耕作することができなくなった状態にあるのが耕作放棄地であります。そしてその耕作放棄地を再生するためには、多大な労力がかかったり、再生後も耕作に適した土になるまでには時間がかかります。現在は、こういう耕作放棄地及びその予備軍とでもいいますが、そういった土地がたくさんあるために、現在耕作している農地でも、だれかにつくってもらいたいというような話のある農地はたくさんあります。したがって、現在耕作放棄地に既になっているものを再生して耕作すると、それには費用もかかったり、多くの労力もかかるということで、この事業によって耕作放棄地を全部どんどんなくしてしまっていくことはなかなか難しいといった点が問題点として上げられるところであります。

これに対しまして、次の御質問が、今後、こうした問題点、課題を解消して、どのように耕作放棄地を減らしていくのか、事業目標と照らして取り組みについて回答してほしいということであります。これにつきましては、担当の農林水産部長からお答えをしたいと思います。以上です。

筒井洋平議長

大塚農林水産部長。

大塚農林水産部長

耕作放棄地の問題点、課題なり、事業目標ということでございますが、耕作放棄地は、さまざまな理由により農業者の皆さんが耕作を断念したものであります。本質的な理由は、やはり現在の農業生産では十分な収入が得られないということが大きな理由だろうと考えておりました。農業所得が向上すれば、耕作放棄地を出す農家も減りまして、また、新規就農する人もふえて、いわゆる農地の需要もより増加することになると考えております。

平成22年時点で把握しております鳥取市の耕作放棄地の面積は151ヘクタールとなっております。これは農業委員会の方が現地を調査いたしまして、これを解消すれば優良農地になるといったところの現地確認の面積でありまして、統計上の農林業センサスというセンサスの数字とはかなり乖離をしております。これは山の中の既に山林化した農地等も含まれておりますので、若干乖離はしておりますが、151ヘクタールということでありまして、平成23年度の耕作放棄地の解消目標面積は15ヘクタールということで、やはり1年に10分の1程度しか耕作放棄地の解消が進んでいないという状況であります。

ただ、この課題であります農業所得が向上しまして、耕作の意欲がふえるということになれば、耕作放棄地は徐々に解消することはできると考えております。

また、現在、日本の食糧自給率というのは御存じのとおり40%程度ということでありまして、いわゆる海外の農地を、1,200万ヘクタールを使って、これは日本の農地の3倍強に当たりますが、そこで農産物を生産して日本が輸入しているといった状況でありまして、今後やはり世界的な人口の増加を考えれば、世界的には食糧の需給は逼迫すると見込まれておりますので、国内の限られた農地をできるだけ確保して、食糧自給率を高めていくことが今後ますます重要になってくるものと考えております。以上でございます。

筒井洋平議長

浅尾悠介議員。

浅尾悠介議員

重ねて質問いたします。就農を志す方々の中には、TPPへの関心の高まりから、就農に不安を感じるようになったという方がおられると思います。こうした方を初め、農業へ一歩を踏み出せない人が安心して就農できれば、担い手問題は解決に向かうのではないのでしょうか。

そこで質問です。御自身が新規就農を志していると仮定し、鳥取市での就農に不安を感じる点はございますか。不安な点がある場合、それを解消するためには何が必要でしょうか。また、御自身が就農すると仮定した場合に不安であると感じる点と、その解消策を踏まえ、新規就農を志す方々が鳥取市で新規就農したくなるように、鳥取市で農業を営むことのよさをアピールしてください。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

これまでの耕作放棄地の議論からも、今の農業の厳しい現実が凝縮してあらわれているように思うわけです。一つは担い手不足や高齢化の問題、それが大きな耕作放棄地の引き金になっている。また、大塚部長の答弁の中でもありましたが、現在の農業が収益力が弱いというようなこと、また、浅尾議員からは、TPPなど不安な要素もたくさんあるといったお話がありました。確かに大きな不安を抱えているのは事実ですが、鳥取市が新規就農の決め手と、決定打と考えておりますとっとりふるさと就農舎という仕組みがあります。これは平成19年度から新規就農の研修施設として開設をしております、果樹、野菜、水稻などの作物の栽培技術を2年間の研修期間で学んでおります。また、農地や住宅の確保については、専任の就農相談員が就農後に栽培する作物に適した産地に農地や住宅を確保するなどの支援を行っているところです。

農業を始めようという特に若い世代の方にとっては、まず農業の技術を身につけること、栽培や経営についての知識、技術の習得、また資金、農地、住宅等、元手となるもの、生活を支え、あるいは生産を支えるそういう要素がなかなか一人の力だけでは確保できないということがあるわけですし、私が就農するにしても、農業の知識だとか農業経営の知識、経験といったこと、あるいはまさにどうやったら農地を確保できるのかとか、農地があっても市街地の中の住宅からそこに出かければ農業ができるということではありませんので、やはり農業を営むのにふさわしい農家といいますが、そういった住宅、作業場があったり、農機具が置けたり、そういった条件を整える必要があります。

ふるさと就農舎は実はそういったことに十分に対応できる制度でありまして、このふるさと就農舎によりまして、私も年末に収穫感謝祭が開かれたときに少し顔を出してまいりましたけれども、最初の1期生がもう3名卒業していますし、2期生が3名、3期生が4人、4

期生も3人と、5期生も3人出て、全体で計16名になりますか、5期生はまだ勉強中ではありますが、4期生まで、3名ないし4名の卒業生が生み出されているということで13名になりますか、そういった状況がありまして……。済みません。資料を見ていると、現在6名が研修していると言っていますから、卒業して実際についているのは10名になりますが、そのような状況の中で、大変新規就農の数としては、もちろん大きな数ではありませんが、コンスタントに若い世代の方が新規就農されているという仕組みがあります。ですから、本当に若い方が農業につく、農業で生活をしようと決意をされた方にとりましては、鳥取市のこのふるさと就農舎の仕組みが大変有効な仕組みとして機能していると考えております。

さらに今後改善をすべき点については改善をして、これからも鳥取市の新規就農において不安ができるだけないように条件を整えながら、耕作放棄地の問題も含めて解消が図られるような施策の展開を図っていきたいと考えております。

筒井洋平議長

浅尾悠介議員。

浅尾悠介議員

重ねて質問いたします。

日本のTPP参加が決定した場合、鳥取市における耕作放棄地の拡大と農業の担い手問題は、TPPによる影響下でどのように展開していくと予測されますか。その展開が好ましくないものである場合、鳥取市として取り組むべき支援、対策にはどのようなものがあると考えられますか。そしてその支援、対策を実現するために必要であると考えられるものはありますか。

最後に、あわせて鳥取市農業の展開を予測した上で、今後、農業関連事業に取り組む意気込みをお聞かせください。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

今の御質問は大きく2つに分かれています。

まず、TPP交渉参加が決定した場合にどのような影響を受けるかということと、具体的にその場合の対策、支援策といったこととあります。最初の部分につきまして、私からお答えしたいと思います。

現在、国は、ＴＰＰ交渉参加に向けて、関係国との事前協議に入ろうとしているところがあります。新聞などによる情報では、一部の国からは日本の参加に理解が得られているというようなことも報道されるところであります。また全体の関係国と参加について同意を得ているという状況ではないのが現段階であります。

ＴＰＰ参加の場合の影響については、既に試算値を公表しているわけですが、本市において、農業生産額１０７．５億円の４６．４％に当たる４９．９億円が減少をすると、４６．４％が減るということでもありますので、約５０％強が残るということになりますが、要は生産額ベースで半分ぐらいになってしまうということで、特に米づくり、それから畜産への影響が大きく懸念されております。

こうしたことから、現時点では、何らかの対策を行うことなくＴＰＰに参加した場合には、本市の主要な産業である農業、産業であるばかりでなくて、やはり非常に地域の環境保全とか、あるいは兼業農家等の多い中で、生活に密着した農業として存在している農業が相当深刻な影響を受けることになり、耕作放棄地の拡大、あるいは担い手の確保についても深刻な影響が生ずるものと考えられます。現在の段階でＴＰＰ交渉に参加をしていないこと、そして参加した場合での影響に関してどんなものになるか、交渉が具体化する中でないとなかなか的確にその影響を把握することができませんけれども、こうした状況にある、大変深刻な影響が予想されるところであります。

その場合の鳥取市としてどういうふうに取り組むことになるのかということでもあります。これは国等で、日本全体についてのＴＰＰの参加に伴う影響をどう対応するかということで、率先して方針を出していただく必要のある事柄であると考えておりますが、鳥取市としては、その状況に応じながら、地域の農業を守るために、そうした国の支援制度等を活用しながら耕作放棄地の解消や担い手の確保に取り組んで、日本の食糧が今でも自給率が低いという状況ですから、日本の国民になくってはならない食糧を日本としてはやはり万一のことと考えて、しっかりみずからの地域の中で確保する努力が必要であると考えます。

したがって、先ほどからも述べているように、地域の農業をできる限り存続をさせて、特に農業地域である鳥取市といたしましては、自給率の向上につながるような取り組みを鳥取市として国の制度、これはＴＰＰが導入された後の国の制度というのは、今、具体的に想定でない状況にありますけれども、それを生かして日本の大事な食糧の生産地でもある鳥取市の農業を守っていく必要があると考えております。

こういった議論もこれから具体化する話だと思っておりますので、今後、状況を十分に注視しながら検討を進めていきたいと思えます。

筒井洋平議長

浅尾悠介議員。

浅尾悠介議員

ありがとうございました。市民として行政に尋ねてみたいことは何かということと、行政の方からぜひ御答弁をいただきたいことを意識して質問票の作成に当たりました。市長の御答弁はそのキーワードにあったものであり、とても参考になるお考えを提示して下さったと思っています。ありがとうございました。以上で私からの質問を終わります。（拍手）

筒井洋平議長

新名阿津子議員。

新名阿津子議員

私は、とっとり千年構想について質問いたします。

地球が誕生して46億年がたちました。1,000年前もこの土地は存在し、恐らく1,000年後も続いていくでしょう。1,000年という時間の中では地震や火山の活動もあるかもしれません。

その中で、山陰海岸ジオパークは、約2,500万年前からの日本海形成に伴う多様な地形、地質、風土と人々の暮らしをテーマとするジオパークであり、2010年10月に世界ジオパークネットワークへの加盟認定を受けました。私はこのことを、鳥取が地球の歴史を見るのに適した持続的発展可能な土地、大地であると世界が認めたことであるととらえております。

一方で、鳥取市は1889年に市制が施行され、ことして123年が経過します。その間、さまざまなことがありましたが、これは46億年の歴史から見るとほんの一瞬の出来事です。その一瞬の中で現代社会は殊さらスピードと成果が重視される時代となり、近視眼的な発想や考えにとらわれがちになってしまいます。

そこで、今回は、鳥取の未来を長期的なビジョンから語るために、5年、10年や50年、100年ではなく、1,000年というタイムスパンから考えていきたいと思えます。

まずは、この鳥取市の将来、1,000年後の姿について、お考えをお聞かせください。

以上で登壇での質問といたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

まず、とっとり千年構想というテーマといいですか、題目は非常に壮大な考え方で、後で出てきますが、ジオパークという歴史的に見ても時間のスパンの非常に長いものを考えたときに、1,000年というのは、1,000年そのものもそんなに長いことではないという前提があつての御質問だと思います。

まず、1,000年先を語るというのはいきなりなかなかできないわけで、私は、やはり1,000年前を考えてみるというのが大事だと思います。ちょうど「平清盛」が始まっておりますが、あれが大体900年くらい前ですよね。12世紀で、鎌倉幕府が1192年に始まる。その同じような世紀の始まりごろのことですが、その少し前になると平安時代の終わりごろという話になってくるのだらうと思います。そのころのことというのは、それほど鳥取で顕著な話は思い浮かばないのですが、ちょうど因幡の国庁に国司として大伴家持が赴任をして歌を詠んだのが約1,250年前となっていますから、鳥取平野はそのころ既にある程度形があつて、しかし、余り海に近い方ではなくて、今の国府町の国庁跡のあたりが恐らく安定的な役所の所在地と考えられて、そこに因幡の国庁が置かれていたのがアバウトに言って1,000年、1,200年前ということになるわけでありませう。

しかし、そこで万葉集の編さんをしたとも伝えられていますし、既にその地域が相当その当時としてはしっかりと整った農耕社会があつたり、それから地域社会が存在していたということも歌からも推測できるわけでありませう。年の初めに地域の豪族の人たちを集めて大伴家持が国司として歌を詠んでいるということで、今と余り変わらない正月風景があつたのではないかという気にもなります。

そういう地域社会、農耕社会が成り立っており、奈良の都との間でいろいろつながっていたわけですし、そういうことを考えると、1,000年前もそう大きく今と変わらない状況もあつたようにも思われます。

私は、これから1,000年先もある意味でそんなには変わらない部分があると思います。もちろん表面的に技術革新がどんどん進んで、自分の行きたいところを指定すれば、乗り物が自由にそこまで運んでくれるといった電気自動車が動いているとか、もう電気でないかもしれませうが、そういったことが起こっているかもしれませう。しかし、やはりこの地は、

一つの、今いう鳥取の地元の地域の皆さんがこうしてこの地に生活をして、そして生産、そして地域社会を築いて文化を生み出しているという基本的な形は変わらないのだろうと思っておるところです。

したがって、そうしたことのために、やはり今考えられるいろんなリスクファクターですね、例えば災害に対するリスクと、そういったことに対してはしっかり対策を立てる。そして人間の基本的な生存にかかわる衣食住みたいな点、こういった点につきましては恐らくそんなに大きく変化をしないで、これから1,000年も続くだろうと思われま

す。そういったことで、鳥取の町につきましても今の町の基盤を基本的に尊重しながら、まちづくりをその時代、時代に必要に応じて、変化も取り入れながらやっていくということを常に考えて取り組みを進めていくことが必要だと思

います。1,000年後の鳥取市の人口がどれぐらいだろうかとか、いろいろ思いをめぐらせてみますが、余り明確な答えを出す根拠が私自身乏しいわけではありますが、60年前のことをちょっと議論する機会があって、鳥取大火があった1952年ですが、調べてみるとそのときの鳥取市の人口は6万1,000人だったという話をしております。というのは、大火後に合併をして、少し大きくなるということで、明治の始まったときは3万人ぐらいの鳥取市ですが、大火があった60年前がちょうど6万1,000人という数字になります。区域がいろいろに変わるので、人口も変わってきますけれども、私は人口の数字というよりは、きちんと人々が生活を営んでいる町として、これからも1,000年も存続できるのがこの鳥取の地域だと、鳥取市だということは、1,000年前を振り返ってみてどうだったかということを考えても、1,000年間続いたものはこれから1,000年間続く可能性も大いにあるという意味合いでもって、必要な変化に対応することができれば、これは十分に存続を図って、市民生活を豊かにすることのできる土地であるということ

筒井洋平議長

新名阿津子議員。

新名阿津子議員

ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

自然は地球の諸活動が作り出してきたものですが、一方で、都市は人間が作り出した

文化の一つであります。世界の都市を見ますと、多様な形態があります。例えばスペインのコルドバやトレド、ドイツの中世都市でありますレーゲンスブルクなどのように世界遺産に登録されるものや、ニューヨーク、ロンドン、東京といったグローバルシティーとして世界経済の中枢に位置する都市が上げられると思います。もちろんこれら以外にも多様な都市の形態がございます。

鳥取の都市としての歴史を見ますと、鳥取城の城下町を起源とし、鳥取地震や鳥取大火をくぐり抜け、現代へと形を変えてきました。今後、鳥取が都市として1,000年続くために、都市としてのあり方や機能、景観についてどのようにお考えをお持ちでしょうか。以上を質問いたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

担当かどうか少しわかりませんが、都市整備部長の方から景観の問題、あるいは機能の問題等について、答弁を申し上げます。

筒井洋平議長

大島都市整備部長。

大島都市整備部長

お答えいたします。

本市は、鳥取大火などの大きな災害を経験してまいりましたが、町をイメージしたときの久松山をシンボルとした景観は基本的に変わっていないと考えております。また、約500年前に鳥取城が築城されて以来、若桜街道、智頭街道を通して久松山を望む、それが中心市街地の景観を考える基本であり、1,000年先にも変わらないものと考えております。

そのため、まちづくりにおいては、鳥取城跡周辺地区における城下町としての風格のある景観整備、久松山に向かう両街道を中心とした見通し、いわゆる「山あて景観」の保全、また、駅開通から約100年が経過し、鳥取県のもう一つの核を担っている鳥取駅周辺地区の活気ある玄関口としての顔の保全、この3つの景観が一体のものとして意識されるべきであり、今後さらに磨きをかけていくことが大事であると考えております。

そして、まちづくりの面からは、1,000年先を見据えて、多極型コンパクトシティーの中心市街地の二核二軸における各施設の更新、再配置、新設を行う際に、この景観の基本

方針と整合させていくことで、景観面でも都市機能面でも1,000年続く都市を実現できるものと考えております。

鳥取城跡周辺地区につきましては、平成23年5月に設置した有識者、公募委員等から成る現本庁舎周辺地域活性化検討委員会において地域の課題を検討し、20年後の将来に向けて、「多様な世代が住む、豊かな街なか生活の舞台」「多様な歴史、文化、景観等の資源を有する、交流の舞台」の2つの方向性を平成23年11月の中間報告でいただいております。また、第9次鳥取市総合計画の施策の一つである鳥取城跡観光の推進のための鳥取城跡観光推進計画素案についても今年度中に策定し、市民の皆様の御意見をいただくこととしております。

一方、鳥取駅周辺地区におきましては、平成23年に有識者、商業者等関係者の意見をもとにした鳥取駅周辺再生基本構想に位置づけられている多機能を高度に集積した広域商圈対応型拠点の形成等の将来像を実現するための鳥取駅周辺再生基本計画を今年度中に取りまとめる予定としております。これらの計画で整備される内容につきましては、鳥取市景観形成条例、鳥取市公共サインガイドラインに合致させるとともに、鳥取市景観形成審議会に随時報告いたしまして、助言をいただきながら進めてまいります。

このことにより、景観面でも都市機能面でも鳥取市の中心市街地を1,000年先に向けて着実に成熟させていきたいと考えております。以上でございます。

筒井洋平議長

新名阿津子議員。

新名阿津子議員

ありがとうございました。

最後に、一つ御提案申し上げます。

先ほど少し触れましたが、1,000年という時間の中では地震や火山活動が起こる可能性も否定できません。その際に重要となるのは、日ごろからの防災、減災への取り組みであります。変動帯に位置する日本に暮らす私たちにとって、地震や火山は身近な存在であり、それらを理解する必要がありますが、その機会が十分にあるかという点、不十分であると指摘せざるを得ません。

そこで、防災、減災に関する学校教育及び市民教育でのジオパークの活用を御提案したいと思います。と申しますのも、ジオパークは地球をテーマにした自然公園であり、自然災害

や防災教育においても活用することが望ましいと考えているからです。実際、霧島ジオパークでは、日ごろからの研究者とガイドのネットワークが構築されており、新燃岳噴火の際も素早い対応が行われたと聞いております。鳥取においても自然災害による死傷者ゼロを目指して、市民が自然災害や防災に関する学習機会を持ち、地球科学の研究者と密接なネットワークを持つことができるような施策が必要であり、これを進めるために、ぜひジオパークの活用をお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。よろしくお願いいたします。

筒井洋平議長

鳥取市長。

竹内市長

新名議員のこれまでいろいろ活躍されている分野の一つがジオパークでありまして、今の御質問はまことにもっともな御提言だと思ってお聞きしました。

ジオパークはそもそも、地質公園とも言われる場合がありますが、雲仙普賢岳の例でもよくわかるように、実は大きな災害をそこで巻き起こしてもいるわけでありまして、やはり防災と全く無縁ではないと、私はもともと無縁ではないと考えた方が自然であるように思います。ですから、ジオパークを学ぶことが防災を学ぶことと、多くの場合、そういう図式が成り立つのだと思います。

そこで、山陰海岸ジオパークについてもそういう観点から、今、地震のことなども、実は海の中を調べるよりも陸地の方とか湖沼を調べて地震の津波の形跡を見るとか、そういったことがあります。鳥取砂丘でも砂の層を見ていると、ここに火山灰があるとか、そういったことで火山噴火がそこに刻み込まれているわけで、そのように、ジオパークを学ぶことは災害について学ぶことであることが多々あるわけでありまして。

新名議員とその関係者の方々が先般、津波啓発チラシとか地震啓発チラシをつくられたと聞いており、また、湖山池情報プラザなどのジオパークの拠点施設に設置されているということも伺っておりますので、こうしたこともPRの一環に、PRというか、ジオパーク学習の内容の一環に加えるなど、これからジオパークに関しては、鳥取市内の全小学校を対象とした現地体験学習といったことも実施していくわけでありまして、学習リーフレットを作成して小学校に配布しておるわけでありまして、こうしたことに加えて、あるいはその内容の中に防災という観点、あるいは災害についてのいろいろな痕跡とか歴史とか、そういったものを含めてしっかりと防災教育につながるジオパークの学習ということを今後の取り組

みの中で位置づけて、推進を図っていきたいと思います。

筒井洋平議長

新名阿津子議員。

新名阿津子議員

ありがとうございました。

1,000年後といえますと3012年です。どのくらいの方が生きていらっしゃるのかわりませんが、そこから振り返ったときに、この2012年がいい意味でのターニングポイントとなるような市政を期待しております。

私からの質問は以上です。ありがとうございました。（拍手）

筒井洋平議長

茗荷幸也議員。

茗荷幸也議員

私は、中心市街地の活性化を考えた際、スポーツファンの集う施設の設置が必要ではないかと思います。近年はサッカーブームで、日本中がにぎわいを見せています。それに伴い、最近ではテレビで県外のサッカーファンの集う施設が取材され、サポーターが熱狂している様子を見ることが多いように思います。このサッカーブームは都心限定の話ではなく、私たちの住む鳥取でもガイナレ鳥取を応援する動きが見られています。しかし、鳥取にはスポーツファンの集う施設がないように思います。この施設の設置により、鳥取駅前がにぎわいを見せるだけでなく、男女の出会いの場としても一翼を担う可能性もあると考えています。

そこで質問です。今後は、中心市街地の活性化に向け、どのような取り組みが必要だとお考えでしょうか。

以上で登壇での質問といたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

茗荷議員の御質問にお答えします。

中心市街地活性化の方策、取り組みということではありますが、これはかなり以前から中心市街地活性化の取り組みを続けておるわけですが、平成19年11月といえますから、今から3年強になりますが、その前に一番最近の中心市街地活性化基本計画というものを内閣総

理大臣の承認もいただいて、これを実施しているわけでありますが、この計画によれば、街なか居住の推進とか広場、公園の整備、鳥取駅前広場のリニューアル、公共駐車場の整備、商店街に人の流れを生む社会実験、これまで非常に数の多い、60前後の多くの事業がそれに基づいて取り組まれてきておりますが、そういったことによりまして、町に魅力的な環境をつくり出そうという取り組みが続けられているわけでありまして。この推進役としては、鳥取市中心市街地活性化協議会、それから関係の商店街、こうしたところと鳥取市が連携をしながら進めている状況であります。

その中の事業の一つとして、お話のありました鳥取駅周辺というところでの事業ですが、今年度より、23年度より市道駅前太平線に全天候型の芝生広場などの整備を行いまして、オープンカフェとかイベントなどを行うことのできる魅力的な空間をつくり出そうという事業が進行中です。鳥取駅前太平線再生プロジェクト事業という事業名でやっておりますが、この完成が平成25年2月に完成をするということでありまして。現在の鳥取大丸の太平線側のエリアです。大丸の場所ばかりではなくて、グリーンホテルモーリスの前とか、その向こうの交差点のところまで、その内容であります。こうした面的な道路空間を一部、今申し上げました全天候型の芝生広場などを整備するとともに、そこで具体的なソフト面でのいろいろなイベントとか取り組みを商店街と連携しながら行うことで、新たなにぎわいを生み出す事業を予定しております。現在、その内容について新鳥取駅前地区商店街振興組合などと協議をしております。

昨年のガイナレのアウェイサポーターの皆さんも鳥取駅周辺の駐車場を利用したり、鳥取駅周辺の飲食店を利用していただいたりと、町の駅周辺の活性化に貢献をいただいております。そういったことを考えると、お話にありましたようなスポーツファンの集う施設の設置、これは必ずしも公共的な施設という意味ではないと思いますが、民間の店とか、調べてみると今でも存在はしているようでありますが、そういったものが今後またふえてくるものと思います。

それと同時に、中心市街地の中では、パレットとっりの2階市民交流ホール、ここは公共的な、市民交流ホールという名前でもおわかりいただける空間でありますので、ぜひいろんなスポーツファンの集い等を自主的にどんどん開いていただいて、御利用いただけたらと考えるものであります。ここの整備については鳥取市が主体的に行っている経過があります。大型のテレビモニター等も利用いただくことも可能だということで、パブリックビュー

ーイングとか、いろんな取り組みに活用できるものと思います。

いずれにしても、若い方々に魅力のある中心市街地をつくるために今後とも取り組みを充実していきたいと考えております。ぜひとも中心市街地というところについて、余り関心がないとか、魅力を感じない、用がないとか、そういうふうを決めつけてしまわないで、町は生き物ですので、いろいろ変わってまいりますので、今後そういう中で、若い人が魅力を感じるいろんなものが生まれてくる状況を今つくり出そうとしておりますので、そういった中で積極的にその空間を活用するというような発想で、多くの方に御利用いただければ、町もにぎわっていくものと考えております。

筒井洋平議長

茗荷幸也議員。

茗荷幸也議員

ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

鳥取市に住んでいながら、最近では、鳥取市の特色を知る機会が少ないと感じています。まず、鳥取に在住されている方に鳥取市の特産物を知っていただくための広告が必要だと思います。鳥取市以外では味わうことのできない食べ物や、自然体験を県外にアピールする機会をふやすべきだと思います。例えば御当地バーガーショップなどの定期的な出店、鳥取の特産物の周知を目的としたブースの設置、鳥取の自然に少しでも触れていただけるような公園、もしくは体験型プログラムなどの開催が必要だと思います。

そこで質問です。鳥取市では、特産物を生かした取り組みとしてどのようなものがございますか。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

経済観光部長から具体的な取り組みの紹介などとあわせてお答えをしたいと思います。

筒井洋平議長

杉本経済観光部長。

杉本経済観光部長

お答えをいたします。

本市では、平成20年1月に鳥取市経済活性化戦略、平成20年5月には鳥取市地域ブランド創出活用方針、これらを策定いたしまして、地域資源である特産品を生かした産業振興を計画的に実施しているところでございます。

具体的には、事業者、生産者の特産品等のブランド化、あるいは販路拡大の取り組みを支援するとともに、農商工連携等によります新商品開発の取り組みに対しまして積極的に支援を行っているところでございます。あわせて、本市の魅力ある食、特産品をさまざまな媒体、機会により積極的に情報発信しているところでございます。

特に、市民はもとより、観光客を対象といたしました販売拠点、昨年6月に地場産プラザ「わったいな」がオープンをしたところでございます。また、平成14年11月からばかりいち、あるいは平成17年4月からは鳥取砂丘情報館サンドパル、また、平成18年4月には道の駅「神話の里白うさぎ」、また道の駅「清流茶屋かわはら」、これらを計画的に整備いたしまして、特産品等の販売、PR、観光情報等を提供しているところでございます。

また、本市では、平成15年度から地域の産物を地域で消費をするといった地産地消を市民にアピールをし、生産と消費を図るといったことを目的といたしまして、地産地消の店認定事業を行っております。昨年の12月末現在で97店舗を認定しているところでございます。この地産地消の店では、地元産品を使った料理が提供されております。市民の皆様を初め、観光客の皆様にも地元産品のPRに一役を買っているといった現状がでございます。

そのほか、首都圏や関西圏を初め、国内姉妹都市等で物産展等に積極的に参加をしております。また、環日本海諸国の韓国、中国、ロシア、あるいは台湾へ、本市の特産品のPRや販売に取り組んでいるところでございます。

また、昨年4月からは新たに公式インターネットショップ「とっとり市」を開設いたしまして、参加事業者の皆さんと連携をして、鳥取市のすぐれた物産を広く国内外へPRをし、販売をしているところでございます。

最後に、来年度の新たな取り組みを御紹介させていただきます。

6月9日、10日には、本市で開催をされます近畿・中国・四国B-1グランプリ in TOTTORIを開催いたします。ご当地グルメフェスタにおいても県内外の多くの来場者を10万人見込んでおりますが、とうふちくわ、あるいは鳥取カレー、ホルモンそば等、鳥取のB級グルメをPRしたいと考えております。また、あわせて、鳥取市街地や観光地におきまして、鳥取の食や特産品を一層積極的にPRに努めてまいりたいと考えているところ

でございます。以上でございます。

筒井洋平議長

茗荷幸也議員。

茗荷幸也議員

ありがとうございました。

最後になりますが、重ねて質問いたします。

鳥取市には城や城跡があると思うので、城をアピールする応援隊のようなものが必要だと思います。例えば城の歴史や、当時、人が城に住んでいたころを体験できるコーナーなどを設置するとおもしろいと思います。歴史の舞台となった場所をより多くの方に知っていただくためにアピールするとよいと思います。このような歴史的名所を活用するとともに、近くにお食事どころがあれば客足がふえると思います。

そこで質問です。鳥取市では、自然や歴史的名所を生かした観光コースの新たな作成について、どのようにお考えになりますか。また、鳥取市では、歴史的名所のコースを回るといった取り組みはされていますか。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

お答えします。

まず、城が出てまいりました。鳥取城の修復整備を計画的に進めようとして、基本計画を立てて、実施の段階に今入っていると。先般、お堀の水の水位がずっと下がっていたと思いますが、水を減らして、西高に上がっていく橋のところの水位をずっと下げて調べてみたら、以前の木橋のときの基礎が出てきたと、柱の一部なども残っていたということで、鉄筋にかえるすぐ前の木橋もあるけれども、それとまた別に、それより古い時代の木橋の遺跡も出てきたということで、新たにその橋を修復できる、歴史的なものとして再現することができるというような資料が手に入ったという報告を受けております。城の修復実現とともに、やはりそこでのいろんなドラマ、最近の地方紙で紹介されたのでは、吉川経家公の漫画がまた新たに連載がされて人気を博しているということがありますし、そういったさまざまなお城をめぐる動きが現在ございます。ぜひお城に注目して歴史を考えたり、興味を持ったりしている方はたくさんおられるので、そういったお城のファンといえますか、あるいはそれがア

ニメになってくれば、そのアニメファンも含めて多くの関心を引くと思います。一つの大きなポイントになるということは私も考えております。仁風閣で「るろうに剣心」のロケが行われましたけれども、その映画もこの夏、封切りされるということで、そのロケ地を見に来られる新たな観光客もふえるのではないかと考えておりますが、そういったことも含めて、今、お城、あるいはその周辺についての関心が高まっていると申し上げたいと思います。

それから、自然とか歴史的な名所をつないだような観光コースというのは、以前からいろんなものを提供しておるわけですが、最近の例を少し紹介しますと、鳥取市観光協会に所属している4名の観光アクションプランナーが四季ごとに新たな観光コースを作成して、県外の旅行業者に売り込みに出かけているといったこともございます。鳥取市だけでも相当そういう取り組みがなされますが、鳥取市の周辺の東部の4町、1市4町、東部にある4町とあわせて、因幡の観光という形でもさらにそういった展開ができます。鳥取市観光協会では、法人化に伴って、第三種旅行業の免許取得に向けた取り組みも開始されておりまして、積極的な観光客誘客の観光コースを販売していくということが、今、間もなく具体化することになります。これまでも観光コースはパンフレットとかいろんな情報発信の中で我々としては作成をして、そして提供しているところであります。こうしたことについてはしっかりとこれからも取り組みを充実強化させていきたいと思っております。

筒井洋平議長

茗荷幸也議員。

茗荷幸也議員

御答弁いただき、ありがとうございました。（拍手）

筒井洋平議長

岡村耕作議員。

岡村耕作議員

私は、鳥取市の雇用、就職活動について質問いたします。

まず初めに、鳥取市の雇用の情勢と行われている政策について伺いたいと思います。

現在の鳥取県の有効求人倍率は、平成23年12月時点0.67で、1を切っています。低い数値であるのは確かなことです。その上、新規の求人数が平成23年度10月時点で3,423人であり、年々減少している傾向にあります。このまま低い数値で推移し、鳥取の雇用環境及び就職環境の改善が行われなければ、鳥取市におけるフリーターやニートの増加、

就職者の減少により、鳥取県の景気の後退、税収の減少など、さまざまな問題が生じてくると考えられます。

このような状況を踏まえ、鳥取市では現在どのような方針のもと、雇用の状況改善に取り組んでいるのかお尋ねします。

以上で登壇での質問といたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

岡村議員にお答えをいたします。

鳥取市では、平成22年度から強力に新規の雇用創出を大きなテーマとして取り組みを進めております。それは、雇用創造戦略方針という方針をまず立て、そしてそれに基づいて具体的な計画を立てているところであります。4年間で2,000人以上の雇用創造を目標としてスタートを切ったわけですが、その方針の内容としては4点ありまして、地元企業・事業者の育成・発展、成長産業の振興・支援、産業全般の底上げの両面から雇用を拡大させること、3点目として若者の雇用の場の確保、4番目として求職側と求人側とのマッチングがうまくいくようにマッチングを積極的に促進させる、この4点であります。平成22年4月から23年9月まで、合計して2,202人の雇用を創造しておりまして、このうち正規雇用が1,009人、45.8%、正規雇用の割合をもっと高めていく取り組みが必要だと認識していますが、いずれにしても4年間で2,000人という目標に対して1年半で2,202名という数字を実現できたので、そういう意味では、この方針が非常に有効に機能しているとは言えると思います。臨時的な雇用の拡大について、国等の支援を活用してふやしている部分もありますので、今後、そういった国等の支援ではなくて、実際にその地域での実の雇用をさらにふやしていったら、そういったものに臨時的な雇用にあった方が乗りかえていけるようにするというのを今考えて取り組みを進めています。

本市では、昨年12月の三洋CE株式会社の事業再編に伴う372名の離職者の方はもとより、直接それとかかわりなく生じている失業の方、あるいは新卒で未就職の方、こういった方を全部まとめて、まとめてとって、一つにするという意味ではありませんが、それぞれの方々に対して、地元就職支援・人材確保強化チームを昨年の7月に設置し、窓口体制を11月に充実強化を図って、今、対処しているところです。現在、この窓口体制というのが、

従前は2名の方が就職のあっせんにかかわっていましたが、5名の方が就職口、働き口の紹介とかマッチングとか、新たな働き口の掘り起こしとか、そういったことに取り組んでいる状況であります。したがって、若い人の雇用を含めて、現在の厳しい雇用情勢の改善に向けた取り組みを市として、県や国とも連携しながら取り組みに全力を挙げているという状況でございます。

筒井洋平議長

岡村耕作議員。

岡村耕作議員

ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

私は、鳥取大学で4年間学びました。周りの友達の多くは県外で就職している状況です。その理由として1番なのは、鳥取県及び鳥取市の新規の採用者募集の数が非常に少ないためです。彼らの、彼女たちもいるのですが、その人たちの多くは地元である鳥取にて就職を希望していたのですが、鳥取では就職するところが少ないことにより、県外、多くは都市部ですけれども、そこにて就職を決定しています。民間も募集が少なく、教師に至っては数名程度、公務員にしても倍率が何十倍にもなっています。就職をしたくてもできない若者が多いと考えられます。この状況の中で、就職浪人してしまえば、来年はさらに厳しいと予想される就職活動が待っています。

高卒、大卒者にとっては難しい現在の状況であり、このような状況が続けば、有能な人材及び鳥取市に残りたいと考える若者の都市部への流出がとまらないと考えられます。これらの若者に対してどのように感じ、この状況をとめるためにもどのような政策が必要だとお考えですか。以上です。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

今、岡村議員が指摘している県内就職希望者がなかなか希望するような就職が得られていないということについては大変私も深刻に考えておりますし、ぜひとも県内就職希望の皆さんが、希望どおりということはなかなかいかない場合はあるにしても、できるだけ多くの方が希望に沿った内容の就職ができるように、そして県内の就職内定率が上がるように取り組

を進めたいと考えております。

数字で見ますと、平成22年度の鳥取県内の新規大学等卒業者、専門学校、専修学校といった学校もあわせての新規大学等卒業生ということですが、これが県内就職希望者770人ございまして、それで最終的に県内就職内定率は84.2%、648人という状況であります。こういった厳しい状況がずっと続いているということでもあります。本市においても、これは全県的な数字でしたけれども、同様に厳しい状況があると認識をしています。その結果、多くの若い方々が大都市圏等で職を得て仕事をするということになることについて、非常に残念に感じております。

本市では、若者雇用の場の確保と安定した生活を送ることのできる環境づくりを最優先の課題と考えておりまして、鳥取市雇用拡大・若者定住対策本部を鳥取市の中に設けまして、雇用創造戦略方針と若者定住戦略方針を策定し、若い人の就職の実現を少しでも多くできるように努力をしているところです。

産業面でいいますと、これまでどちらかというと製造業に関しては電気電子などが非常に大きな部分を占めていたと思います。それは従業員の数でも、それから生産額でもそうだったと思います。その分、第3次産業の部分は相対的に少なかったと思います。そういう業種なり業態のこと、それと同時に、やはり新たに求人をして伸びていこうという企業がなかなか多くはなかったということがあります。ただ、今年度のようにいろんな事情も重なって、例えば鳥取自動車道などの交通条件の改善、あるいは東日本での災害などによるリスクの分散ということがそれにかかわってきますが、新規の企業の鳥取への進出といったこともかなり見られるようになっておりますし、我々も誘致のための努力を重ねているわけでもあります。こうしたことから、これまでに余り多くなかった業種の企業の進出なども出てきておりますので、より多く若い人の就職の場となる可能性が今、生じつつあると思います。引き続き大学等とも連携をよくとりながら、地元就職を希望する方の就職の実現に、市は市として、いろんな企業誘致とか地元企業に対する働きかけとか、そういったことを通じて実現を図っていきたいと考えています。

ことは市内の産業構造が大分変わっていく最初の年になっていくと思います。そういう中で、今、就職についていろんな努力をしておるところでありまして、今後、より多くの大学の卒業生の地元就職の可能性を広げていきたいと考えているところです。環境大学も多くの入学生を迎えるような状況を今つくってきておりますので、卒業生の就職という次の大き

な課題について力を入れていきたいと考えているところであります。

筒井洋平議長

岡村耕作議員。

岡村耕作議員

ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

私の場合は早い段階で鳥取において就職が決まったため、お金の面での苦勞はしませんでした。しかしながら、多くの人たちは地元以外にもさまざまな地域に赴いて就職活動を行っています。教員志望の友人は、鳥取市の教員採用の厳しさを受け、東京を受けました。そのほかにも公務員志望の友人でも、鳥取県及び鳥取市の倍率が非常に高く、東京都特別区を受けたりしていました。民間志望の人でも鳥取市だけではなく、大阪や東京などの都市部を受けています。このときの旅費は実費であり、何回も県外に行くため、学生には非常に厳しい環境であると考えられます。全国的にも言えることですが、雇用情勢によって多くの学生が苦勞している現状に対してどのように考えていますか。

また、難しいかとは思いますが、そのような就職環境にいる学生に対して何らかの支援などはお考えでしょうか。以上です。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

就職支援についての取り組みであります。経済観光部長の方から具体的にお答えします。

筒井洋平議長

杉本経済観光部長。

杉本経済観光部長

お答えいたします。

学生の皆さんが県外へ就職活動に出かけることは、経済的に大変な負担となっている現状がございます。そこで、鳥取大学あるいは鳥取環境大学といった大学では、学生の皆さんの就職活動の経済的負担を軽減するということで、京阪神方面へのバス料金の助成などを行っていると同っているところでございます。

本市の具体的な取り組みを御紹介いたしますと、まず第1点でございます。新卒未就職者

の方を対象といたしまして、とっとり若者仕事プラザと連携いたしまして、若者インターンシップといった事業を実施しております。また、第2点といたしまして、雇用相談窓口の体制強化、あるいは求人・求職データベースの構築によりまして、雇用のマッチング強化の事業等に取り組んでいるところでございます。

また、本市でこれまで取り組んできているところでございますが、鳥取環境大学と市内の専門学校を卒業された方の支援といたしまして、市内に住所を置き、就職をされた方、これらの方に奨励金を支払うといった制度を設けて実施をしてきているところでございます。本制度の対象を市内の全大学あるいは専門学校に広げて市内就職を奨励するとともに、市内企業にも求人を促すような制度設計を現在検討しているところでございます。来年度予算に盛り込む方向で検討を進めております。

そのほか、地元企業を知っていただくため、在学中の学生の皆さんを対象に合同企業説明会を開催いたしますとともに、今年度からは鳥取大学や鳥取環境大学、これらと連携をいたしまして、企業見学会を開催しております。

本市には優秀で特色ある技術や業績を有する多くの企業がございまして、その中には皆様が活躍できる企業がきっとあると私どもでは考えているところでございます。いま一度、本市の地元企業に目を向けていただくことを学生の皆様にはお願いをしたいと思います。以上でございます。

筒井洋平議長

岡村耕作議員。

岡村耕作議員

いろいろ御答弁いただき、ありがとうございました。今後とも若者が安心して就職活動に臨めるような環境整備を進めていってほしいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

筒井洋平議長

垣屋克吉議員。

垣屋克吉議員

私からは、鳥取市の観光資源の活用について質問したいと思います。

砂像の常設展示場などの鳥取砂丘周辺の整備をしていくという話が市長の所信表明にもありましたが、まず、いまだに県外者から、鳥取市には砂丘以外に何があるのかとよく聞かれ

るのが多いのですが、広報の面でいろいろと努力されている中、思うような成果が出ていないように感じます。集客数の面で鳥取砂丘が優先されるのはわかりますが、ほかにも観光資源があるのに、分散させるようにしなければ、地域経済は一向に潤わないと思います。

先ほど説明がありましたが、グルメ以外の鳥取市の観光資源について、今後どのような展望を考えているのか、お尋ねしたいと思います。

以上で登壇での質問といたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

垣屋議員の質問にお答えしたいと思います。

鳥取市の観光資源について、今後の展望をどのように考えているかということであります。

これまで鳥取市の観光資源として、砂丘とか温泉とか、そういったことが上げられてきていると思いますが、現在、その幅について、観光資源として位置づけられているものはどんどん広がってきていると考えています。砂丘に関しては、2009鳥取・因幡の祭典などで砂像という、砂の彫刻が非常に大きな要素として、魅力を持った観光資源として位置づけ、効果を上げてきたと思いますし、それらを受けて、1期から4期までの砂の美術館を受けて、ことしの4月からの砂の美術館、新たな全天候型の展示施設がオープンすることになりました。しかし、それが単に砂の彫刻がそこにあるというだけではなくて、山陰海岸ジオパークという位置づけも出てきておりまして、そういう中で、例えばジオパークとの関連であれば、この砂の美術館があって、鳥取砂丘の特別保護地域の馬の背などの砂丘の自然そのものがあるって、それ以外に白兔海岸とか湖山池とか雨滝とか扇ノ山とか、いろんな市内の各地域がジオパークの位置づけの中で語られ、あるいは案内されるということが関連づけられて紹介されるということが出てきているわけです。

そういったことと同時に、鳥取市において、一例であります、コンベンションとかイベントとか、そういったこともどんどんふやしてきておりまして、コンベンションの開催において、平成22年度では80件、3万229人の参加があったと、こういうことがその80件だけで上げられていますが、この80件はそれぞれ市としても支援をしてきた部分でありますので、そういった取り組みが鳥取への観光客の誘客を呼んでいるということになります。

鳥取砂丘というものは、全国的にも知られている鳥取市の代表的な観光地で、まずそこに

磨きをかけることによって、ほかの観光地、観光といっても見たりするだけではなくて、買い物も一つの観光と位置づけられていますが、あるいは食事をするのも一つの観光活動であります。賀露西浜のかろいち、わったいなというところへの誘客につながると、あるいは旅館など、温泉の活用と、それから例えば砂丘でのイリュージョンなどがつながるといった、砂丘とつないでの観光ということが一つの戦略でもあり、展開のかなめに置かれているということについても申し上げておきたいと思います。

いずれにいたしましても、ことし行われるイベントなどを通じまして、多くの観光客を呼び込み、また、山陰海岸ジオパーク、砂丘というものを核とした他の観光地への波及ということを経営として、鳥取市の観光の今後の展望を切り開いていきたいと考えているところがあります。

平成23年を見てみると、やっぱり砂の美術館がないと砂丘に来た観光客の数も減っておりますし、いつか200万人ぐらいまで来ていましたが、私の手元の資料では122万8,000人という数字がございますが、そういうふうに落ち込むわけですね。これはしかし砂の美術館ができ、鳥取市全体のいろんな条件が変わってくると、またこれも200万人を超えるような水準に上がるものと考えております。

そういう意味で、現在の存在している観光資源に磨きをかけるとか、あるいは情報発信をしっかりと充実して展開するというところで、今後、明るい展望が持てると考えております。そういう方向に取り組むを進めていくことにしたいと思います。

筒井洋平議長

垣屋克吉議員。

垣屋克吉議員

ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

近年、世間でサブカルチャーがブームになっていますが、来年開催される国際マンガサミットに対して、鳥取市としてどのように取り組んでいくのかお伺いします。

このマンガサミットを通して世界に鳥取を発信できるいい機会になると思うのですが、鳥取市民に浸透していないように思います。主に広報活動を報道されているのは県ですが、それでも周りの反応はいまだに薄いです。一番市民に近い市が動いていないこの状況はどうなっているのでしょうか。最近になって「とり漫」という漫画が発行されていますが、少しは

反響で周知され出してはきましたが、一過性にすぎないと思います。各観光名所を漫画形式で紹介するというアイデアはよいのですが、若者からは、作者のことを全くもってと言っていいほど知らないという意見もあり、興味を持ちにくいのではないかなと思います。

事例ですが、米子市では、サブカルチャーのイベントをきっかけに起業した若者を行政が支援して、新たな集客源を生み出そうと動いています。世間では御当地アイドルやコスプレなど、イベントとの抱き合わせによって集客活動を展開していますが、鳥取市としてこのサブカルチャーである漫画がメインなマンガサミットに対してどのように取り組んでいくのかお尋ねしたいです。以上です。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

国際マンガサミット鳥取大会が平成24年度に開催されると、メイン会場は米子の方での開催が予定されておりますが、これはそのサミットの鳥取大会という一つのイベントでありまして、まんが王国とっとりの建国イヤーという位置づけも県は打ち出しているわけです。まんが王国とっとり、鳥取県のことですが、鳥取県全体がまんが王国という、そしてそれは建国イヤーという、建国年だということは、これからずっとそれが2年目、3年目となっていくということでもあります。

鳥取市は、当然このまんが王国建国の年ということをお鳥取市における漫画関連の取り組みの一つの大きな弾みとしていきたいと考えております。既に昨年からイベントとして、鳥取市の漫画家を紹介するような展示をわらべ館で行っておりますし、また、谷口ジロー氏の作品の原画展を2度にわたって市内で開催しております。そういったことと関連して、鳥取市出身の谷口ジロー氏の朗読劇があったり、映画化に向けた取り組みがあったり、いろいろ動き出しているという事実があります。また、「父の暦」という代表作の一つであり、鳥取大火などが描かれた鳥取市が舞台の作品ですが、これの重版、さらに刷り増しということですが、重版を出してもらおうように小学館に働きかけるなど、これまで鳥取市として取り組んできたところであり、これによって公民館の図書館とかそういったところ、小学校の図書館、そういったところにも本を配置しているという状況があります。

そのほか、最近のお話では、先ほどちょっと触れましたが、仁風閣を舞台に撮影された「るろうに剣心」の映画口ケ写真展をこれから予定していることもありますし、仁風閣での

コスプレイベント、これも既に一度そうした企画イベントがされたようではありますが、今後
も続けて行われる予定があります。鳥取環境大学での漫画公開講座とか、そういった環境大
学での漫画に関する取り組みも出てまいります。

そういったことで、鳥取市においても漫画に関連する取り組みはこれまでも、あるいはこ
れからもだんだんふえていき、多くの方に鳥取出身の漫画家、あるいは鳥取で漫画に関心
を持った方が県内の漫画家の作品なんかに触れることができるようにしたいと考えております。

鳥取市としてもいろんなイベントを今後、県が展開する「まんが王国とっとり建国記念
国際まんが博」といったイベントの中で取り組みを展開したいと考えておりまして、まだ余
り内容が説明できるほど具体化しているわけではありませんけれども、今後とも、建国の初
年度ということで、具体的なスタートが図られて、来年以降にもつながっていくような取
組みをしたいと考えております。

いずれにしても、このまんが王国、まんが共和国であろうかという意見も見たことがあり
ますが、いずれにしても東部の地域、鳥取市の地域で漫画についての取り組みや、出身の作
家の方、あるいは鳥取市で活動しておられる漫画家の方もいらっしゃる中で、これから環
境大学も含めて漫画のイベントや取り組みを充実していくことを具体的に積み上げていき
たい、積み重ねていきたいと考えておりまして、これは改めて何かの機会にその全体像がわ
かるようなものを市報などでも出していくなどして、市民の皆さんによく御理解いただけ
るよう説明をさせていただこうと私は考えているところであります。

筒井洋平議長

垣屋克吉議員。

垣屋克吉議員

御答弁ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

鳥取市には、いまだ城下町としての風景が残っていますが、鳥取市はこの城下町の視点の
イメージをどのように生かしていくのかお伺いします。

中国地方を例にとると、山口県萩市では、城下町としての景観を生かしたまちづくりが行
われていました。萩市は城下町のイメージに合った整備をして、城下町には商店街を配置し、
人を集客できる観光名所として構築されていました。松江市では、お城から商店街へ人の流
れが行くように動線を確保し、月1回であったり年1回、商店街で大きなイベントをするこ

とによって地域の活性化を図っています。京都のように大きな規模で条例を制定して町並みを守っている地域もありますが、鳥取市ではどのような取り組みをしておられますか。

また、鳥取市の景観の整備、先ほど都市整備の方からもありましたが、久松山を臨む風景、しかし、これもマンションなどの大型の建物が建っているために、一部見えないところもできてきて、台なしにはなっていますが、そういった景観の整備を行うのはもっともだと思えますが、もう少し観光名所の動線を考えたまちづくりを視野に入れて考えてほしいです。風情を楽しむというのは観光名所の必須条件だと思えますが、その名所を回るのに苦労するといった現状をまず考えていただきたいと思えます。個人的な意見ですが、史跡とサブカルチャーのコラボレーションなどもおもしろいと思えます。

これらを踏まえ、鳥取市として城下町を生かした取り組みをどう考えているのかお尋ねします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

先ほど都市整備部長からも少し紹介もありましたので、中身については部長から答えてもらおうと思えますが、御質問の城下町としての風景が残っている。実は江戸時代の城下町の町割りと言われるような状況が今の中心市街地の中にまだ見受けられるということはよく言われている点であります。したがって、そういったことも念頭に置きながら、城跡周辺地域の景観を大切に、もっと改善をしていくというようなことも含めて取り組みが必要だと思えます。

また、アクセスに関してもちよっとお話がありましたが、100円循環バスですね、くる梨と言っていますが、こういったものをお堀のところまで、初めはそういうルートでなかったのですが、持っていくことにして、実際には博物館、仁風閣、あるいは久松山の登り口の方につなげていくようなこと、あるいは武道館の方にもう一つの停留所を設けるなども行ってきたところであります。

城跡周辺地区としての整備なり観光ルートとしての考え方につきましては、担当の都市整備部長からお答えいたします。

筒井洋平議長

大島都市整備部長。

大島都市整備部長

お答えいたします。

まず、城下町としての風景を生かしていくことについてでございます。先ほど申し上げました内容につきまして、補足させていただきたいと思えます。

まず、鳥取城跡周辺地区につきましては、平成23年5月に設置した有識者、公募委員等から成る現本庁舎周辺地域活性化検討委員会において、平成23年11月の中間報告で、「多様な歴史、文化、景観等の資源を有する、交流の舞台」という方向性をいただいております。具体的には、観光資源となり得るような施設が多く立地していることは、本地域ならではの貴重な資源であり、今後のまちづくりに生かしていくべきである。このことを踏まえ、鳥取城跡等を中心とする歴史、文化や久松山を背景にした良好な景観等の資源を生かしながら、人が集まり、回遊する環境づくりに重点を置くことにより、交流の舞台となることを目指すべきであるというものでございます。

また、こちら先ほどの補足になりますが、平成23年度からスタートした第9次鳥取市総合計画の施策の一つとして鳥取城跡観光の推進を掲げており、現在、庁内関係課で組織する中心市街地再生本部の城跡観光部会におきまして、鳥取城跡観光推進計画素案について検討しているところであり、今年度中に公表し、市民の皆様の御意見をいただくこととしております。当面は、お堀端を中心とした取り組みといたしまして、将来的には橿谿公園まで広げていくことを考えております。

また、県内外からの観光客を城跡へ呼び込むために、歩行者を鳥取駅から城跡まで案内、誘導するための公共サインの整備や、鳥取自動車道、山陰自動車道などの利用者を城跡まで誘導するための案内看板の設置についても検討を行っております。

続きまして、風景を守るための取り組みでございます。

鳥取市には、鳥取砂丘を初めとしまして日本海や湖山池、千代川、久松山など、水と緑豊かな自然景観が多くございます。また、鳥取城跡、鹿野城下町、因幡国庁跡など多くの歴史的、文化的景観を残しており、市民、そして行政がこれらの豊かな資源を後世に継承し、保全、活用していくため、平成20年3月に鳥取市景観計画を策定しております。この計画の中で、鳥取城跡などの歴史的、文化的景観形成資源及び久松山山系と一体となって景観をつくり出している地域を景観形成重点区域に指定いたしまして、景観に特に大きな影響を及ぼすと考えられる規模の建築行為等を対象として、その行為の制限を定めております。具体的

には、一定規模を超える建築物の新築、増築、工作物の新設、改築等の事前の届け出や色彩等についての一定の制限などがございます。

また、先ほど鳥取城跡観光推進計画素案の中で、お堀端を中心とした景観整備から将来的には榑谿公園までと申し上げましたけれども、それに加えて、鳥取城、鳥取藩に関連する寺社、建物などを有機的に結ぶ観光ルートの設定についても御指摘のとおりさらに検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

筒井洋平議長

垣屋克吉議員。

垣屋克吉議員

御答弁をありがとうございました。いろいろと質問しましたが、きょう言っていたことを実現できるように、さらに一層邁進してほしいと思いますので、お願いします。

以上で終わります。（拍手）

筒井洋平議長

松尾慶輔議員。

松尾慶輔議員

鳥取市若者会議の松尾慶輔と申します。最後の質問者となりました。皆様お疲れのこととと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

本日、私は、婚活と子育て事業についてお伺いしたいと思います。

まず、婚活事業についてお伺いします。

2011年11月25日、国立社会保障・人口問題研究所が発表した出生動向基本調査、これは独身者を対象にした全国調査ですが、異性の交際相手がいない18から34歳の未婚者が男性で61.4%、女性では49.5%に上り、いずれも過去最高になっています。前回の2005年調査と比べると、交際相手がいない割合は、男性では9.2%、女性で4.8%増加しています。

こうした状況の中、鳥取市若者会議Bグループ主催で、今年の11月12日にカップリングパーティーを河原町の西郷地区で行いました。

まず、どんなイベントであったか概要を簡単に説明いたします。

そのときこういったパンフレットの資料を制作いたしまして、男性、女性15名ずつを一般公募して、計31名で開催いたしました。三滝溪の紅葉散策と窯元めぐり、これは牛ノ戸

焼き窯と中井窯、それからやなせ窯の3件を徒歩で歩いて回ったものです。その後、湯谷荘において食事会をするという形式で行いました。その後、希望者のみですが、地元の民泊の体験もしていただきました。

結果として、3組のカップルが成立いたしました。

そのイベント終了後に参加者アンケートを実施しましたので、その中から4点ほどピックアップして紹介いたします。

まず、男性の平均年齢は30歳、女性は29歳でした。有効回答は、男性11名、女性16名の計27名となっております。

まず1番、日常の場面で異性との出会いがありますかという問いに対して、よくある、たまにあると答えられた方は35%、余りない、全くないと答えられた方は65%でした。

2番目としまして、これまでにカップリングパーティーなどに参加された回数という問いに対して、2回目、3回目以上が38%、初めてという方が62%という結果でした。

3番目といたしまして、イベントに参加されてどうでしたかという問いに対して、5段階評価で4以上が75%という高評価をいただきました。

最後に4番目といたしまして、またこのようなイベントに参加してみたいですかという問いに対して、90%の方が参加してみたいという結果を得ました。

私たちが実施したイベントは、平成23年度鳥取市新たな出会い支援事業補助金を活用させていただきました。ほかにも同様なイベントを開催されたと思いますが、その成果についてお伺いします。また、鳥取市の未婚率についてもお伺いします。

以上で登壇での質問といたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

松尾議員の御質問にお答えします。

婚活事業について、いろいろ実践的な取り組みもされて、それをもとにした御質問でもあると思います。

まず、未婚率等について最初にお答えしたいと思いますが、今、平成22年の国勢調査の結果が出ておりますが、これで見ますと、まず日本全体の未婚率は20代で78.19%、30代で34.71%、もちろん男女分けていえば違う数字がまた出てくるのでしょ

ども、男女あわせて20代の未婚率、30代の未婚率はこういう数字になっています。この数字は、先ほど申し上げました20代の78.19、30代の34.71というのは、17年の調査の結果と比べると、少しだけ未婚率が増加をしていると、20代の方の数字は余り変わらないで0.06%の増、30代の方は1.89%の増ということで、未婚率、未婚化という状況は、今、鈍化をしつつあるという感じを受ける数字となっております。

鳥取市と全国を比べた場合は、これは本市の未婚率を見る上ではまだ平成17年の国勢調査を使っておるのですが、20代で75.12%という未婚率で、そのときの全国の数字は78.13%です。全国の未婚率が78に対して鳥取での未婚率が75と、ですから未婚率が少し低い状態があります。それから30代で鳥取の未婚率は29.16%、全国は32.83%ということで、ここでも全国の未婚率より鳥取市での未婚率の方が低いということで、未婚率に関する限り、鳥取市の未婚率の水準は全国より低いのが実情であります。ですからより多くの率で結婚しているということになります。

そういう中で、先ほどから質問の中で御紹介のあった、異性との出会いの場がないといった若者の実態を我々も認識をして、市として平成22年度より新たな出会い支援事業補助金を創設して、婚活事業に対して支援をする取り組みを展開してきております。昨年度は5団体、今年度は7団体に対して資金的な支援をしています。いわゆる補助したわけですね。この結果につきましては、若者が気軽に参加できるようになったこともありまして、現在までの実施事業で延べ588名の男女の参加がございます。うち128名についてはカップルが成立して、その中から既に結婚にこぎつけたという報告が1件実績として我々のところに情報が入っております。こうした取り組みにつきましては、市としてはこれからはもしっかり支援の取り組みを考えて、市内で効果的な婚活事業が民間の力で、NPOでもいいですし、そういった方々の手によって、個人のような方々でもいいのですが、グループ、それから今、若者会議Bグループで行われたケースも松尾議員御承知のようにあるわけでありまして、こういったことをどんどんできる限り支援して、活性化していきたいと考えております。効果もそれによってだんだん上がってくると考えております。

筒井洋平議長

松尾慶輔議員。

松尾慶輔議員

御答弁ありがとうございました。

それでは、重ねて質問いたします。

鳥取市では、結婚による若者定住を促進し、人口増加を図ることを目的として、鳥取市新たな出会い支援事業補助金を創設されています。つまり婚活で結婚につなげ、その後の出産により人口増加を図ろうというものだと考えます。国立社会保障・人口問題研究所が発表した出生動向基本調査、これは夫婦を対象とした結婚と出産に関する全国調査、その資料によりますと、完結出生児数、これは夫婦の最終的な出生子供数をあらわしますが、2010年で初めて2人を下回りました。また、夫婦に尋ねた理想的な子供の数は前回調査に引き続き低下し、調査開始以降最も低い2.42人となりました。

それらの原因として最も多いのは、子育てや教育にお金がかかり過ぎるからということです。とりわけ30歳未満での若い世代では、こうした経済的理由を選択する割合が高いようです。一方で、30歳以上では、欲しいけれどもできないからなどの年齢、身体的理由の選択率が高いようです。また、30歳代では、これ以上育児の心理的、肉体的負担に耐えられないからという回答がほかの年齢層に比べて多いのが特徴です。

次に、今後、子供を産む予定がある夫婦に、予定の子供数を実現できないときに考えられる理由について尋ねたところ、妻が30歳未満の若い層では4割以上が収入が不安定なことを上げています。また、妻35歳以上の夫婦では、65.3%が年齢や健康上の理由で子供ができないことにより、予定の子供数が持てない可能性があると考えています。つまり結婚しても理想的な子供の数を出生できないという厳しい状況にあるわけです。このような状況が少子高齢化という問題の原因になっていると思われまます。

厳しい財政状況にあり、年金が今後継続的に支払われていくのかという不安と雇用問題などがあっては、将来設計を立てにくいということもあります。一方で、子供なくして明るい未来はあり得ません。これらを踏まえて、鳥取市の少子化対策の方針についてお伺いいたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

人口増加対策という観点からも、また、少子化対策といった位置づけからいろいろな取り組みをしております。具体的な取り組みを担当している健康・子育て推進局長からお答えをいたします。

筒井洋平議長

武田健康・子育て推進局長。

武田健康・子育て推進局長

お答えいたします。

本市におきましては少子化は進んでおりまして、具体的な数字で申し上げますと、平成16年、1,903人という出生数がございましたが、平成21年にはこの数が1,678人まで減っております。5年間で200人余り減少しておりますという状況でございます。

この出生数が減少しています大きな原因は、若年層の県外流出によります出産年齢人口の減少であるにとらえております。本市におきましては、その対策といたしまして、平成22年8月に鳥取市若者定住戦略方針を定めまして、若者の定住対策に戦略的かつ総合的に取り組んでおるところでございます。

中でも若者の転出の主要な原因であります地元での雇用不安の解消、これを第一義的な課題にとらえまして、鳥取市雇用創造戦略方針を定めて、若者定住戦略方針と連動した総合的な取り組みを進めているところでございますし、また、昨年7月には地元就職支援・人材確保強化チームを設置いたしまして、県や民間企業と連携しながら、市内での就職機会の確保に重点的に取り組んでおるところでございます。

議員の御紹介でもございました出生動向基本調査では、子育てにお金がかかることが理想とする子供を実現できない1番の理由であるということでございますが、まずは雇用の安定を図ることが子育てに要する経済的な負担感への心理的要因の解消につながると考えております。

本市の第9次総合計画では、リーディングプロジェクトの一つに健康で安全・安心な暮らしプロジェクトを掲げておりまして、その主な内容の一つに、安心して妊娠、出産、子育てができる支援体制の整備を上げております。その中の施策でございますが、妊娠、出産の支援など、周産期医療や小児医療体制の整備、乳児健診の実施や保健師などによる赤ちゃん訪問などの子育て相談体制の整備、また小児特別医療制度の拡大、発達の気になる子供への相談体制の充実、保健・医療・福祉・教育の連携によります切れ目のない子供の発達支援体制の整備、こういったものを行っております。

ただいま紹介した施策の中でも具体的な取り組みといたしまして、妊婦健診の助成でありますとか、あるいは不妊治療への助成も実施しておりますし、また、母子栄養食品の支給、

さらには任意の予防接種でありますH i bワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの無料接種、また、先ほど紹介しました中学校卒業までの医療費の自己負担の軽減、こういったものもやっております。また、保育料は国の基準を大きく下回っております、預けてもらいやすいような環境を整えております。こうした子育て世代の負担の軽減、一生懸命努めておりますが、それ以外に子ども手当、児童扶養手当の支給といった国、県との協調のもとでの次世代育成支援にも力を注いでおるところでございます。以上でございます。

筒井洋平議長

松尾慶輔議員。

松尾慶輔議員

御答弁ありがとうございました。

それでは、重ねて質問いたします。

鳥取県では、子育て王国ととっとりと銘打っております。私はこのフレーズを大変気に入っております。そこで、鳥取市における具体的な取り組みとその成果及び鳥取市の独自の取り組みについて伺いいたします。

筒井洋平議長

竹内市長。

竹内市長

鳥取市におきましては、鳥取市次世代育成行動計画というのを何回かつくってきておりまして、現在の計画では4つの大きな目標を掲げております。1つは親と子の心身の健康、そして子育て家庭の相談体制の充実、これが2番目でして、そして地域ぐるみの子育て支援が3番目、子供と子育て家庭に優しい環境づくり、この4つであります、その目標のもとで細かい具体的な施策を行っております。

特に子育てと仕事の両立ということを支援する取り組みとして、保育園の充実に力を入れており、先ほども局長から答弁しておりますが、保育料を国の基準より低く設定するとか、それから平成18年度より年間を通じて待機児童ゼロを維持するためのあらゆる努力を重ねているということがあります。そういった努力をする結果として、保育園児の受け入れ数が増加してくるわけではありますが、平成18年9月末現在の受け入れ児童数が4,887に対して平成23年9月末、同じ時期で比べるとということでこういった年度の中間の時点をとっておりますが、これが5,362ということで、差し引き475人ふえているということで

あります。保育園での受け入れ数をふやすということなどを通じて、子育て王国なり、子育てに適した環境を整えていくといったことをいたしております。

こういったことのためには、幼保一体化施設のこじか園を開設したり、あるいは認定こども園を開設したりといった幼保の一元化あるいは一体化といったような考え方に基づく施設、これは一つの新しい流れではありますが、そういったものもつくってきているということがあります。

そのほか、子育て支援カードなどを県下で他に先駆けて導入するとか、そういったいろんな取り組みをしてきております。

子育てということに関して総合的に市としても福祉サービスの充実などを通じて行っていますが、やはり地域、家庭あるいは企業、そういったところの理解も不可欠であります。そういう意味で、行政だけでできることではなくて、地域を挙げて、家庭とか企業も含めて、こうした取り組みが効果を上げられるように、市としても総合的な施策、総合的な支援、そうしたことにこれまで以上に努めていきたいと考えております。王国という言葉がいかがうかは別にして、本当に子育てしやすい環境を常に整えていけるような努力を今後とも重ねていきたいと考えております。

筒井洋平議長

松尾慶輔議員。

松尾慶輔議員 ありがとうございます。

私ごとではありますが、ことしの春、子供が生まれる予定になっておりまして、そういった意味で、非常にこういった子育てというのは大きな関心を持っておるところであります。

先日、中央保健センターにおいてパママ学級という講座がありまして、そちらの方に参加させていただきました。この中には特に、市長を初め、それから幹部の方々、子育てをしてこられて、いろいろと苦労があるかと思いますが、私も初めてそういう立場になって、不安が非常にあります。そういった意味で、そういった講座で子育てについての講話をいただくなど非常に有意義な時間を過ごすことができました。そういった意味でも今後とも、経済的なことはもちろんですけども、精神的なことについても、不安の軽減であるとか、払拭をしていけるような施策を実現させていただきたいと思っております。特に人口が減少したという話がありまして、平成の大合併をしたときは20万人、人口がいたと思いますが、今は恐らく19.5万人ぐらいということで、人口は減っているかと思っております。そういったとこ

るを改善することによって、今後、さらなる発展があるのではないかと考えております。

最後になりますが、2年前、この議会で私は鳥取砂丘の利活用について質問をさせていただきました。その中で、砂おこしで町おこし、砂像のまち鳥取ということをお話しさせていただいております。その後、あちらこちらで砂像、砂の像を見ることができて、そしてことしの春、4月には、いよいよ世界初の砂の美術館がオープンするというので、大変、私はうれしく思っております。そういったことを踏まえて、今後、鳥取市のさらなる発展を願って、私の質問とさせていただきます。以上でございます。（拍手）

筒井洋平議長

以上で市政一般に対する質問を終わります。

日程第4、議員提出議案第1号、鳥取市若者会議の鳥取市政に対する決議を議題とします。若者議会を代表して、岡村耕作議員に決議文の朗読をお願いします。

岡村耕作議員。

岡村耕作議員

鳥取市若者会議の鳥取市政に対する決議。

私たち鳥取市若者会議は、鳥取市の持続的な発展を願い、それぞれが若者ならではの視点でさまざまな活動を行っています。その活動の中でまちづくりの重要性や、その取り組みの難しさ、時間をかけて一步一步物事を進めていかなければならないことなどを学び、体験してきました。

私たちは、鳥取市の発展のために何ができるか、どのようにすれば地域貢献できるかを考えてきましたが、このような取り組みはこれからも継続してさらに進めていく必要があると理解しています。

これからもまちづくりに積極的に参画するとともに、行政と歩調を合わせ、協働の理念をその行動の根底に持ちながら、鳥取市の発展と暮らし続けたいふるさと鳥取市に関心を持ち続けていきます。

私たち鳥取市若者会議は、鳥取市がこれまで以上に市民との協働のまちづくりに取り組まれることを期待し、ここに決議します。平成24年1月21日。鳥取市若者会議。

筒井洋平議長

これより議員提出議案第1号、鳥取市若者会議の鳥取市政に対する決議を採決します。

本案について、原案のとおり決定することに賛成の方の起立をお願いします。

〔起立全員〕

筒井洋平議長

起立全員です。したがって、本議案は、原案のとおり可決しました。

以上で若者議会の日程はすべて終了しました。

これで鳥取市若者議会を閉会します。

議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。